

# お 泉 水

2003年 3月25日

## ◀平成14年度日本図書館協会地方講習会（兼 福井県図書館関係職員研修会）



平成15年2月21日、福井県立図書館新館にて平成14年度日本図書館協会地方講習会（兼 福井県図書館関係職員研修会）を開催した。参加者は111名、県内参加者は76名（大学13名、高校20名、公共43名）であった。

講師には大串夏身氏（昭和女子大学教授）をお招きし、「図書館司書の専門性」という演題で講演をいただいた。

高度情報社会において、人と情報を結びつける司書の専門性はますます重要になっている。司書ひとりひとりがレファレンス、対コミュニケーション能力、管理・運営能力、説明能力等専門技術の向上に努めることが必要である。それにより図書館が地域社会で認められ、さらには図書館司書が専門職として必要であると住民に認められる。また、レファレンスについては、インターネット上の役立つ情報源をリストアップして有効に使う

とよい、活用すべき情報源の例として検索エンジンを搭載し効率よく検索できるリンク集である「インターネット学術情報インデックス」（東京大学附属図書館・情報基盤センター作成）等多数挙げられるなど、司書としての豊富な経験をもとに話された。  
(事務局)

## ◀平成14年度全国図書館大会

「進化する図書館、未来を拓く群馬から」を掲げた全国図書館大会（第88回）が、昨年10月23日から25日にかけて群馬県前橋市で開催された。

初日の全体会議では、日本図書館協会理事長の基調報告のあと、「豊かな生のために」と題して哲学者内山節氏による記念講演があった。氏は群馬県上野村に「図書館をつくる会」の立ち上げや、NPO型村づくりなどで精力的な運動を展開されており、人の根源的な問題に造詣が深い。講演ではこれらの問題も含め、人間らしく生きることの意味、二十世紀の政治経済との関係におけるかけがえない人間、他者との関係から失われつつある本来的な価値を取り戻そうとする人々の動きなどについて熱く語られた。社会的規範、道徳が取り沙汰されるいま、傾聴すべき内容であった。また、参考までに氏には「自然と人間の哲学」「時間についての十二章」「子どもたちの時間」（岩波書店）などの著書がある。

2日目の分科会（短大・高専）では基調講演「変化を学習する」「図書館の環境」のあと、高専分科会に移り図書館の改革（ちょっとした工夫の大切さ）、図書館での情報リテラシー教育の可能性、研究室出張文献セミナーの取組み、情報検索実習に関する熱のこもった討議があり、最終日の全体会議、閉会式があって散会した。

（福井工業高等専門学校 田中 貞行）

## ◀平成14年度図書館司書専門講座

～終日図書館三昧の2週間～

4月とは思えない暑さのなか、すっかり桜も散り果てた上野の国立教育政策研究所での2週間にわたる研修は、現在の図書館をめぐる諸問題を凝縮した内容だった。

例えばNPOこども高知図書館やブックスタート運動支援センターの方による体験談は、その苦労話までもが魅力的であったし、総合的学習のスタートに伴う学校や地域との協力、高齢者サービスにおける病院や老人福祉施設との協力の例は、図書館サービスの可能性の拡がりを感じさせられた。さらに図書館経営論をめぐっては、前川恒雄氏と糸賀雅児氏が午前・午後に分かれて、それぞれ白熱した自論を展開された。

また、レファレンス実習での様々な手法の紹介やインターネット検索での図書館に役立つサイト巡り。さらに自館をモデルにした図書館サービス計画の企画・立案は、具体的に最も役に立ったと感じた部分であった。

簡単に要約できるものでもないが、ともあれ宿舎での他の研修生達との会話も含め、こういった問題をまとめて腰を据えて考える機会を得たことは、貴重な経験だったと思う。

（福井県立若狭図書学習センター 渡辺 力）

## ◆平成14年度全国公共図書館研究集会

### ◆奉仕部門

10月17・18日の2日間、さいたま市において「図書館サービスの新たな拡がりを求めて」をテーマに研究集会が開催された。参加者は391名で、本県からは3名が参加した。1日目は、菅谷明子氏による基調講演「新しい図書館の役割とは～ニューヨーク公共図書館の事例から」の後、「開かれた、信頼される、進歩し続ける図書館を目指して～情報発信、学習支援～」 「横断検索前夜」という内容の事例発表があった。2日目は、事例発表「図書館サービスを発展させるカウンター業務」の後、質疑・研究協議・情勢報告が行われた。

特に岐阜県内の横断検索実施後の情勢やさいたま市の市町村合併後の運営、自動貸出機導入の効果に関して活発な質疑応答があった。当市としても関心の高い事例であり、どのように取り組んでいけばよいか参考になった。是非、今後に活かしていきたい。他にも、学校との連携不足からくる問題が多いことから、教師や生徒への図書館利用指導や情報リテラシー教育が必要であるとの意見も多数あげられた。これからの図書館サービスに向けて図書館に何が求められているのかをよく考え、自己の改革にも努めていきたいと感じた。

(福井市立みどり図書館 木川 真由美)

### ◆整理部門

平成14年度全国公共図書館整理部門研究集会が9月19・20日、秋田市で開催された。全国から集まった223名の出席者の中に、図書館勤務半年足らずの私も混じっていた。井の中の蛙には見聞きすることのすべてが珍しい。

「地域資料の再発見」という研究主題も、基調講演が始まって30分余も過ぎてから、「なあ～んだ、地域資料って郷土資料のことか」と、ようやく納得。世の中無知ほど怖いものはない。3図書館の事例発表は、地方図書館としての特色があり、具体的でわかりやすい。消費型サービスから付加価値のついた生産型サービスに変え、図書館が、情報提供とアイデアの提供でビジネス支援をするという発想は実にユニークである。

図書館員として、コンピュータ知識をもつ事が、今後ますます必要になってくるであろうし、生活するために必要なリアルな地域情報の提供がますます求められるであろう。住民のニーズに応えられる図書館づくりには、何が必要なのか漠然とはあるが、手がかりをつかめたような気がする。限られた予算の中では、現状維持が精一杯だと考えていた私の目から、鱗がどっさり落ちました。前向きにアイデアを出し合いながら、魅力ある図書館づくりを目指したい。

(丸岡町民図書館 谷口 幸宏)

## ◆平成14年度全国公共図書館参考事務研究集会

「変革期におけるレファレンスサービス」を研究テーマに10月3日・4日の両日、三重県の津市で開催された。参加者は211名で、本県からは5名が参加した。

特別講演として「地域社会の情報デザイナー～新しい図書館の役割とは」と題し東京大学情報学環MELL(メディア表現、学びとリテラシー)プロジェクトリーダーである菅谷明子氏がニューヨーク公共図書館の活動内容とこれからの公共図書館の可能性についてご自分の体験を交えて話された。

つづいて急激に多様化・高度化する情報化社会の進展に伴い公共図書館が果たす役割、とりわけレファレンス・サービスは何を目指し、どのようにサービスしていくのか?求められる公共図書館のあり方や今後の課題をあげながら、多様な事例や先進的な取り組みの報告がされた。

その実践例として、勢和村立図書館での児童サービスやブック・スタート事業、立川市中央図書館のweb版レファレンス事例集と郷土資料データベース作成のノウハウ、秋田県立図書館における地域活性化としてのビジネス支援図書館の活動内容などであった。

特別講演と3館の事例発表と参加者の協議・意見交換に学び、議論を深め、あるべき方向を探求した有意義な2日間であった。

(福井市立図書館 田中 元和)

## ◆児童に対する図書館奉仕全国研究集会

11月14・15日の2日間、「読書で拓く子どもたちの未来～豊かな読書環境づくりをめざして～」を研究主題に第31回児童に対する図書館奉仕全国研究集会が熊本市で開催され、700名余りが参加した。作家の松谷みよ子氏の基調講演があり、半生を振り返りながら、絵本製作過程の体験談や作品の生まれた背景、込める思いを伺った、その中で子どもの目線にあわせて作品を作ることが大事であると語った。分科会では、「図書館と学校教育との連携」をテーマに学校の現場にいる先生から事例報告がなされ、図書館だけ・学校だけで行うのではなく家庭および地域へと読書活動が広がっている取り組みや教師が図書館を知らないためにおこる問題などについても報告された。「図書館とアウトリーチ」をテーマにした分科会では、病院に入院している子どもに「お話し」に行く活動をしている文庫や大阪府立図書館内で活動を行っている視覚障害児のための民間の文庫活動などの事例が報告され、図書館の利用に障害のある子どもたちへの読書の進めが報告された。「子どもの読書活動推進法」が制定されたこともあり、それに関することも多く議論されていた。また、これだけ多くの参加があったことから、児童奉仕に対する関心の高さが伺えると思う。県としてもこれから取り組むべき点が多数あり、少しずつでも行えることを考え実行していきたい。

(福井県立図書館 中山 史)

# 新築図書館紹介

## 日本一の図書館 サービス県を目指して

福井県立図書館



### 開館狂騒曲

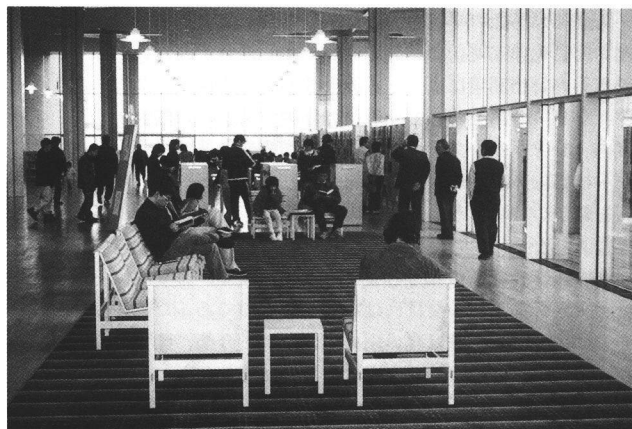
平成15年2月1日、ついに新県立図書館が福井市南部の下馬・小稲津の地にオープンした。城東の旧館を閉ざして5ヶ月、待ちかねておられた利用者や一度見てみようという方々が殺到し、開館日と翌日曜日の2日間だけで入館者数は8千人、貸出数は12千冊に達した。

先ず心配はないとみていた駐車場（400台分、旧館の4倍）が大混乱、館内は利用カード作成に長蛇の列。司書全員がカウンターに出ても利用者の列は延びるばかり。迷子が出るわ、怪我人が出るわとまるでイベント会場か量販店オープンの如き様相であった。うれしい悲鳴といったところですねとこの様子を見た取材記者。とてもそのような心のゆとりはなく、顔がひきつっていた。

その後平日も2千人近く、土日は4千人前後の入館者があり、結局2月の入館者数は54千人、貸出数は69千冊、新規利用者登録は6千人を数えた。

### 新館自慢話

7万㎡の広大な敷地に延床面積18千㎡（うち図書館部分15千㎡。城東の3倍）のこれまた大きな建物。設計の基本理念は、やすらぎと潤いを与える緑の中の「庭園図書館」。建物の中に入れば、高さ7mの天井まで全面ガラス張りの明るく開放感のある空間に30万冊の開架資料と500の閲覧席。これら全てが、段差のないワンフロアに配置されている。書架間隔は、車椅子のすれ違いが可能な1.6m。車椅子の方も駐車場から平面移動のみで施設が利用できる。もちろんベビーカーもOKであり、当館で3台用意したそれもよく利用されている。



記念講演会にお越しいただいた吉村昭氏からは、「良好な読書環境を提供することに徹したシンプルなつくりで全国有数の優れた図書館」との評価をいただいた。

その他新館のセールスポイントを思いつくままに挙げてみる。調査・相談カウンターの新設。郷土文学コーナー・環日本海コーナーの開設。おはなしの部屋の設置。一般資料コーナーの主題別配架。検索端末を22台に拡充（城東では5台）。CD-ROM閲覧端末・インターネット端末の設置（各4席）。パソコン専用席の設置（15席）。収蔵能力160万冊の書庫等々

### 連携強化

地域サービス室の一角にLiBoxを並べたコンテンツ室がある。一般の方を案内してもただ一瞥して通りすぎるだけの見栄えしない部屋だが、これこそは新館運営のソフト面での目玉である県立図書館と市町村立図書館との連携強化を象徴するものである。今のところはまだ空気を運んでいるだけのところもあるが、今後県立図書館を市町村立図書館の書庫として気軽に利用していただき、相互貸借が飛躍的に拡充することを期待している。また、インターネット予約資料の受取館については市町村立図書館全館の参加をいただきスタートすることができた。各館の御協力に対しこの紙面を借りて改めてお礼を申しあげたい。

全国に誇れる立派な建物ができたが、県立図書館がその機能を十分に発揮するためには県内の各図書館との連携、ネットワークの強化が必要不可欠であると考えている。過去の生活満足度調査等で本県は図書館関係データが上位にランクされているが、今後とも県協の皆様と手を携えて名実ともに「日本一の図書館サービス県」となれるよう努力していきたい。

（福井県立図書館 多田 和正）

# 福井県立図書館新情報システム



平成11年から4カ年で開発を行い、15年2月に稼動開始した福井県立図書館新情報システムは「県内どこに住んでいる人にも、均質なサービスを」という理念に則り、インターネットを利用した蔵書検索、資料予約、レファレンス、県内関係調査相談データベース等のサービス提供を可能とし、館内情報機器も拡充いたしました。

また、市町村図書館への支援体制の充実・強化として、インターネットによる相互貸借予約、県内公共図書館総合目録、資料問合せ等の機能を整備し、各図書館との相互貸借、レファレンスの能率向上を図りました。

特に、インターネット予約資料の受取館協力、WebOPACの立上げには、各図書館の多

大なる協力を頂いたことをこの場をお借りして、お礼申し上げます。

今後、県内公共図書館総合目録への参加館の推進、県内関係調査相談データベース等の充実を図り、県内公共図書館との更なる連携を深め、福井県立図書館新情報システムの充実を図っていきたいと思っております。

(福井県立図書館 松野 和夫)



## ◆平成14年度東海北陸地区図書館地区別研修

「生涯学習の理念と施策の動向」を基調講演に11月12日～15日の4日間名古屋市で開催された。

2日目の講義は「対面朗読と対面読書」「カウンター業務における自動貸出装置」「図書館サービスと著作権」、3日目「児童奉仕と児童行事」、4日目「名古屋の出版」といったテーマでの講義が行われた。それぞれの講義において共通している点は、すべての利用者に質の良い、きめ細かなサービスと情報の提供が必要とされているということであった。

その中でも、「カウンター業務における自動貸出装置—東浦和図書館の事例を中心に—」さいたま市立東浦和図書館長鬼頭宗範氏の講義について少し触れてみたい。予想外の貸出利用により、設置必要不可欠の現状。図書館サービスの向上として、職員の単純作業からの開放と案内・レファレンス業務への専念。図書館の運営コンセプトは案内・レファレンス業務を通して「人と資料・情報を結びつけること」。これらの条件・基本的な図書館の運営方針がしっかりしていなければ自動貸出装置の設置が図書館を貸本屋にしてしまう危険性がある。将来的には導入も考えていかなければならないものであるだけに、サービスの低下だけは食い止めなければ、今後、図書館が生涯学習の拠点として存在することは難しい。

(松岡町立図書館 森山 陽子)

## ◆平成14年度東海北陸地区公共図書館研究集会

10月9日・10日の2日間、石川県立図書館において「地域資料と図書館活動」をテーマに開催された。参加者は78名、うち本県からは13名が参加した。

1日目は東四柳史明氏（金沢学院大学教授）による講演「加能地域史からみた歴史資料と図書館」が行われた。その後、実際に地域資料を独自の方法で活用している3館の事例発表が行われた。地域文化のみならず、自然環境条件（雪、水文化）をテーマとした主題別特設文庫を設け、冊子目録を作成（富山県立）、所蔵古文書史料を教材とした講座開講や民間に眠る古文書類の保管方法の指導（玉川）、収集した資料による特別展の開催（北方町立）といった各館独自の資料活用事例が発表された。2日目は前日の内容に関する質疑応答及び討議が行われた。

地域の歴史や生活に即した資料・情報の収集・提供機関が公共図書館に求められる一方、広報の弱さによる地域の人々へのPR不足、職員の異動による専門家を育てにくい環境、収集に整理が追いつかない、などといった問題点が挙げられた。地域資料を活用する為にビジュアル化された目録の作成、実際に資料に触れることの出来るという図書館の良さを生かした広報活動など、情報提供の重要性を再認識した研究集会であった。

(鯖江市図書館 窪田 和恵)

## 平成14年度福井地区大学図書館協議会夏季研修会

- 開催日 平成14年8月30日(金) 9時30分～16時
- 見学先 「利家とまつ」史跡めぐり(武生市内)  
仁愛大学附属図書館
- 参加者 福井地区大学図書館協議会加盟館(福井大学・福井医科大学・福井県立大学・福井工業大学・仁愛大学・敦賀短期大学・福井工業高等専門学校・仁愛女子短期大学)の館員37名

### ■研修内容

前田利家が最初に大名になった越前府中は現在の武生市。NHK大河ドラマ「利家とまつ」のおかげで武生市は一躍全国に知られる地になった。語り部の説明に助けられ、利家やまつが武生で暮らした遠い昔を訪ねた。

真夏の炎天下であるのも忘れ、ふと草深い府中の道を歩いたような気がした。

午後、仁愛大学附属図書館を見学。延床面積2,000㎡、蔵書収容力146,000冊のこの図書館は平成13年4月に開館された。外観は三角形の総ガラス張りである、開放感に溢れた館内になっている。

見学の前には、附属図書館長・教授兼輪秀邦氏による「瓦の美-日本と韓国をつなぐ小さな証-」の講演を聴き、普段何気なく目についている瓦の奥深い話、また映像の美しさに心が癒された。

(仁愛女子短期大学附属図書館 清水 孝子)

## 平成14年度児童図書館員養成講座

7月1日から7月6日までの6日間と9月24日から10月3日までの9日間、日本図書館協会等において児童図書館員養成講座が開催された。参加者は23名、本県からの参加は1名であった。

講座の前期では、児童奉仕および児童図書に関わる著作権、出版流通、建物設備、運営・計画、条例・規則、乳幼児サービス等についての講義が行われた。後期では、書評や選書、レファレンス、ストーリーテリング等演習を伴うものが多く行われた。全科目で事前課題が出され、また講師を交えての活発な意見交換を行った。

講座では、複数の講師が選書の重要性を指摘した。選書とは「新刊を選ぶ」ことだけでなく、「本を買う」「除架する」「買い替える」「廃棄する」という行為全てである。図書館員には自館の蔵書を常に最適な状態に保つ責務があり、優れた蔵書があつてこそ、よいサービスができる。講座中の選書会議等を通して、厳密な選書業務を継続していくためには、個人の熱意や努力では限界があり、組織的かつ集団で取り組むことが必要不可欠であると感じた。

その他多くのことを学び得た講座だったが、同時に選書方法や館全体としての児童奉仕内容など、今後取り組むべき課題がとて多きことも痛感した。

(若狭図書館学習センター 吉川 千鶴)

## 平成14年度福井県学校図書館協議会 この一年

- 4月～9月 第28回県小学生読書感想文コンクール(福井新聞社主催)
- 5月14日(火) 第1回県学校図書館協議会役員会
- 5月29日(水) 全国学校図書館協議会総会
- 6月3日(月) SLBC(学校図書館ブッククラブ)加入申込 前期締切(42校加入)
- 6月～10月 第48回青少年読書感想文全国コンクール(全国SLA・毎日新聞社主催)
- 6月6日(木) 第2回県学校図書館協議会役員会
- 第1回県学校図書館協議会理事会
- 6月11日(火) 「学校図書館の日」
- 7月11日(木) 第3回県学校図書館協議会役員会
- 7月30日(火)～8月1日(木) 第33回全国学校図書館研究大会(横浜大会) 県内より15名参加
- 8月7日(水)～8日(木) 第13回近畿学校図書館夏季セミナー 県内より12名参加
- 9月～1月 第14回読書感想文中央コンクール(全国SLA・毎日新聞社主催)
- 10月15日(火) SLBC(学校図書館ブッククラブ)加入申込 後期締切(40校加入)
- 12月17日(火) 県学校図書館協議会臨時役員会
- 2月4日(火) 第5回県学校図書館協議会役員会
- 第2回県学校図書館協議会理事会
- 「福井県の学校図書館」第48号発行
- 2月6日(木) 全国学校図書館協議会総会
- 3月13日(木) 会計監査

(福井県学校図書館協議会事務局 辻 教一)

## 平成15年度研究集会および研修会(予定)

区 分	開催地	期 間
全国図書館大会	静岡県 静岡市	2003年11月27日～28日
全国公共図書館研究集会サービス部門※	鳥取県 鳥取市	2003年10月9日～10日
全国公共図書館研究集会総合・経営部門※	茨城県 水戸市	2003年9月25日～26日
日本図書館協会地方講習会	岐阜県	未定
東海北陸地区公共図書館司書等専門研修	石川県	未定
東海北陸地区公共図書館研究集会	愛知県	未定

※ 全国公共図書館研究集会は、従前五つの研究集会に分かれて開催していましたが、再編成により三つの研究集会に分かれて開催するように改正されました。平成15年度全国公共図書館研究集会は、上記のとおり二つの研究集会が開催されます。児童・青少年分科会研究集会は平成15年度が休みになります。



# 平成14年度県外研修参加者名簿

研 修 名	開 催 日	場 所	図 書 館 名	氏 名	
平成14年度図書館司書専門講座	4 15～26	東京都	武生市立図書館	橋本美帆	
	4 15～26	東京都	県立図書館	高村美由紀	
	4 15～26	東京都	若狭図書館学習センター	渡辺 力	
平成14年度第1回ILLシステム講習会	5 23・24	東京都	福井医科大学附属図書館	山田もと子	
中部ブロック点字図書館連絡協議会・ボランティア研修会	6 21	岐阜市	点字図書館	稲葉富子	
中部ブロック点字図書館連絡協議会・サービス担当職員研修会	6 27・28	名古屋市	点字図書館	山野 弥生	
国立情報学研究所平成14年度目録システム地域講習会	7 1～3	京都市	敦賀短期大学図書館	中野 雅子	
第22回 2002年児童図書館員養成講座	7 1～6,9 24～10 3	東京都	若狭図書館学習センター	吉川千鶴	
LIMEDIO Seminar for Users	7 16	東京都	福井県立大学情報センター	田中 稔夫	
	7 16	東京都	福井県立大学情報センター	伊藤多 恵	
	7 24～26	東京都	県立図書館	長野 栄俊	
平成14年度図書館等職員著作権実務講習会	7 24～26	東京都	若狭図書館学習センター	高井 智代	
	7 30～8 1	横浜市	福井商業高校図書館	立尾 育代	
平成14年度全国学校図書館研究大会	7 4・5	大阪市	点字図書館	稲葉富子	
全国視覚障害者情報提供施設協会・ないぶネット研修会	7 8～26	東京都	福井医科大学附属図書館	梶川 仁美	
平成14年度図書館長期研修	8 7・8	横浜市	福井商業高校図書館	高島 嘉子	
平成14年度近畿学校図書館夏季セミナー	8 7～9	長岡市	福井工業高等専門学校図書館	三上 恵子	
高等専門学校及び技術科学大学図書館情報シンポジウム	8 27～30	広島市	福井工業高等専門学校図書館	三上 恵子	
平成14年度図書館等職員著作権実務講習会	8 28・29	豊中市	福井医科大学附属図書館	久保 智靖	
電子ジャーナル・ユーザー教育担当者研修会(西地区)	8 9～11	東京都	点字図書館	山野 弥生	
全国視覚障害者情報提供施設協会・目録研修会	9 3～5	金沢市	福井県立大学情報センター	宮川 雄史	
国立情報学研究所目録システム地域講習会	9 5・6	岐阜市	仁愛女子短期大学附属図書館	谷出千代子	
私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会平成14年度総大会・研修会	9 5・6	岐阜市	仁愛女子短期大学附属図書館	清水 孝子	
	9 5・6	岐阜市	仁愛女子短期大学附属図書館	中村 友紀	
	9 6	岐阜市	敦賀短期大学図書館	中野 雅子	
私立短期大学東海・北陸地区図書館協議会平成14年度研修会	9 9～13	東京都	福井医科大学附属図書館	伊藤 茂夫	
平成14年度第4回情報セキュリティ担当職員研修	9 10・11	金沢市	点字図書館	稲葉富子	
中部ブロック点字図書館連絡協議会・点訳担当職員研修会	9 10・11	金沢市	点字図書館	兄父由起子	
中部ブロック点字図書館連絡協議会・音訳担当職員研修会	9 12・13	徳山市	仁愛女子短期大学附属図書館	谷出千代子	
平成14年度私立短期大学図書館全国研修会	9 12・13	徳山市	仁愛女子短期大学附属図書館	清水 孝子	
	9 12・13	徳山市	仁愛女子短期大学附属図書館	中村 友紀	
	9 19・20	秋田市	丸岡町民図書館	谷口 幸宏	
平成14年度全国公共図書館整理部門研究集会	9 19・20	秋田市	県立図書館	坪田直純	
	9 19・20	秋田市	若狭図書館学習センター	井藤久美	
	10 1	名古屋市	福井医科大学附属図書館	久保 智靖	
メタデータ・データベース共同構築事業説明会	10 17・18	さいたま市	福井市立みどり図書館	木川真由美	
平成14年度全国公共図書館奉仕部門研究集会	10 17・18	さいたま市	丸岡町民図書館	山田 尚子	
	10 17・18	さいたま市	県立図書館	東 沙織	
	10 3・4	津市	福井市立図書館	田中 元和	
平成14年度全国公共図書館参考事務研究集会	10 3・4	津市	勝山市立図書館	角 美津恵	
	10 3・4	津市	鯖江市図書館	葛野 順子	
	10 3・4	津市	三国町立図書館	野田 淑美	
	10 3・4	津市	県立図書館	保田 弘子	
	10 8	京都市	福井工業高等専門学校図書館	三上 恵子	
	10 9・10	金沢市	敦賀市立図書館	熊谷新太郎	
	10 9・10	金沢市	鯖江市図書館	窪田 和 恵	
メタデータ・データベース共同構築事業説明会	10 9・10	金沢市	鯖江市図書館	一峰 奈美	
	10 9・10	金沢市	松岡町立図書館	森山 陽子	
	10 9・10	金沢市	金津町立図書館	河村みゆき	
	10 9・10	金沢市	坂井町立図書館	長谷川春美	
	10 9・10	金沢市	丸岡町民図書館	島津久美子	
	10 9・10	金沢市	丸岡町民図書館	高山美和子	
	10 9・10	金沢市	清水町立図書館	松原 和子	
	10 9・10	金沢市	大飯町立図書館	木村 光宏	
	10 9・10	金沢市	県立図書館	牧田真理恵	
	10 9・10	金沢市	県立図書館	三屋 香織	
	平成14年度(第88回)全国図書館大会	10 23～25	前橋市	福井工業高等専門学校図書館	田中 貞行
		10 23～25	前橋市	福井工業高等専門学校図書館	石上 英雄
		10 23～25	前橋市	県立図書館	宮川 陽子
10 23～25		前橋市	若狭図書館学習センター	野田紀代美	
平成14年度北信越地区国立大学図書館研修会	11 7・8	新潟市	福井医科大学附属図書館	坂井 優子	
平成14年度東海北陸地区図書館地区別研修	11 12～15	名古屋市	大野市図書館	山村 和美	
	11 12～15	名古屋市	松岡町立図書館	森山 陽子	
	11 12～15	名古屋市	県立図書館	山本 和之	
平成14年度第31回児童に対する図書館奉仕全国研究集会	11 14・15	熊本市	県立図書館	中山 史	
	11 14・15	熊本市	県立図書館	藤野夏央里	
第4回図書館総合展	11 20～22	東京都	県立図書館	小寺 由己	
第15回国立大学図書館協議会シンポジウム	11 26・27	千葉市	福井医科大学附属図書館	安野 辰巳	
図書館スタッフ実務セミナー	3 4	名古屋市	県立図書館	牧田真理恵	
	3 5	名古屋市	県立図書館	東 沙織	
	3 6・7	京都府	県立図書館	東 沙織	
平成14年度法令議会資料・官庁資料研修	3 10	京都府	県立図書館	三屋 香織	
国立国会図書館第15回保存フォーラム		京都府	県立図書館		